

【実践報告】

教職実践演習（中・高，栄養教諭）授業報告

広島文教女子大学人間科学部

グローバルコミュニケーション学科	教授	笹原豊造
人間福祉学科	教授	菅井直也
初等教育学科	教授	徳本達夫
人間栄養学科	准教授	藤井紘子

0 はじめに（教職実践演習の位置づけ）

教職実践演習を実施して2年目である。昨年度は、実施初年度でもあり演習項目を欲張りすぎて、討議を深めることができなかった。その反省を踏まえて、今年度は演習項目を絞り込むこととし、ICT機器の習熟、学級通信作成、教科(英語・栄養)に関する演習などを割愛することとなった。また、新しい試みとして、初等教育学科主催の「教育学会」に参加し、その報告をさせることとした。

本演習の根幹である①使命感や責任感、教育的愛情に関する事項、②社会性や対人関係能力に関する事項、③幼児・児童・生徒理解や学級経営に関する事項、④教科・保育内容等の指導力に関する事項に深く関わる項目を重点的に取り上げることとした。また、双方向性を更に進め、参加者全員が闊達に議論に参加することを目指した。

1 実施のスケジュール

回	活動内容	回	活動内容
1	「私の目指す教師像」のガイダンス	2	「私の目指す教師像」レポート作成
3	「私の目指す教師像」レポート発表・討議(1)	4	「私の目指す教師像」レポート発表・討議(2)
5	「私の目指す教師像」提出レポート完成	6	「道徳模擬授業」のガイダンス
7	「道徳模擬授業」の指導案作成	8	「道徳模擬授業」の実践・討議(1)
9	広島文教教育学会参加	10	広島文教教育学会参加
11	広島文教教育学会のレポート作成	12	「道徳模擬授業」の実践・討議(2)
13	「道徳模擬授業」の指導案完成	14	「学級づくり模擬授業」のガイダンス
15	「学級づくり模擬授業」の指導案作成	16	「学級づくり模擬授業」の実践・討議(1)
17	「学級づくり模擬授業」の実践・討議(2)	18	「学級づくり模擬授業」の指導案完成
19	「教育に関わる時事問題」レポート作成(1)	20	「教育に関わる時事問題」レポート作成(2)
21	「教育に関わる時事問題」の発表・討議(1)	22	「教育に関わる時事問題」の発表・討議(2)
23	「教育に関わる時事問題」のレポート完成(1)	24	「教育に関わる時事問題」のレポート完成(2)
25	「教育に関わる時事問題」のレポート完成(3)	26	「教育実践演習を受けて」レポート作成(1)
27	「教育実践演習を受けて」レポート作成(2)	28	「教育実践演習を受けて」レポート作成(3)
29	「教育実践演習を受けて」まとめ発表(1)	30	「教育実践演習を受けて」まとめ発表(2)

2 活動の概要

(1) 「私の目指す教師像」

①活動のねらいおよび実際

学生たちはこれまでに多様な教師に接し、それぞれに影響を受けてきている。各自の心に刻み込まれている、いわゆる「良い先生」を文字で表現することにより、「良い先生」を構成する条件・要素を意識化することを意図した。また、本演習のまとめとして、「私の目指す教師像」について再度考察を深める。漠然と感じていた「良い教師」とは、いかなるものかを具体的に理解し、「良い教師」を目指して努力する方向性を明らかにしたい。

②学生のレポートより

○私の目指す教師像は、子供に寄り添い自己肯定感を高める教師です。(中略) 私がそう考えたのは、高校のときに出会った日本史の先生の影響が大きく、先生が作ってくれたきっかけから私は成功体験を重ね、自分に自信が持てるようになった経験があるからです。その先生は、私が海外ボランティアに興味があるということを知り、高校の近くにあるJICAが関与している施設に連絡をとり、ボランティアができるように手配してくれました。(中略) このボランティアで経験と自信を得ることが出来たわたしは、大学入学後も積極的に様々なボランティア活動に参加し、自分の可能性をさらに広げることが出来ました。そして、成功体験を基に培った自己肯定感は、行動を起こす上でとても重要であることを、身をもって実感しています。

○私の目指す教師像は2つある。1つは、生徒がいつでも気軽に「先生」と寄って来られるような雰囲気、または関係づくりのできた教師である。(中略) 先生はとても嬉しそうにし、「質問に来てくれてありがとう。またいつでも来てね。」と言ってくれました。そのような体験をし、私はいつでも生徒が訪ねてきたら笑顔でその生徒を迎え入れ、その生徒が今何位を求めているのか、正確に判断できるように努めたい。(中略) 2つめは、授業以外の時間でもしっかりと生徒のことを観察し、接する機会を持ち、「生徒のことを理解しようと常に努めている」教師である。

(2) 広島文教教育学会に参加して

①活動のねらいおよび実際

10月25日(土)に本学において開催された広島文教教育学会に参加し、分科会では現場で活躍されている先輩方のお話から、幼児教育・児童教育の実態について学び、講演会では児童文学研究の実態について学んだ。分科会においては教師が自ら学び続けることの重要性を実感し、講演会においては自立について考えるなど、幅広く教育について考える貴重な機会となったようである。

②学生のレポートより

○先生方がいつも「どうしたら楽しい授業ができるのか」や「どのような学級経営にしていくのか」など、一番に考えているのは児童生徒のことだと強く感じました。

○一番印象に残った言葉は、「教師として大切なことは、子どもたちの前に立つ社会人として良識ある大人としての態度をとることや仕事に対する使命感と情熱を持つこと」というものです。この言葉を胸に日々の生活を過ごしていきます。

○一番印象に残った言葉は、「教師として大切なことは、子どもたちの前に立つ社会人として良識ある大人としての態度をとることや仕事に対する使命感と情熱を持つこと」というものです。この言葉を胸に日々の生活を過ごしていきます。

○自立とはすぐにできるものではなく、毎日の積み重ねであり、自立のためには様々な経験をし、問題が生じた際に解決策を考えることが大切であると思いました。

(3) 道徳の模擬授業

①活動のねらいおよび実際

授業では、道徳授業の特別教科化の意味と問題点を、道徳教育指導法Ⅱの振り返りと絡めて行った。小学校5年生を対象に扱われることの多い、文部省推薦の「手品師」資料を題材に、児童生徒が本当に道徳を学ぶということはどういうことか、学生の学習の材料となるように模擬授業として示した。

特別教科化についての小学校教員と大学教員の見解を掲載した新聞記事及び教育課程の変遷に関する歴史的資料、国定修身教科書の内容分析、国語教科書の特徴とその時代背景に関する資料、さらに社会科分野の教科書検定に関する新聞記事を材料に、これまでの学習の復習を行った。文部科学省『中学校学習指導要領解説道徳』、同『生徒指導提要』も参考資料として活用した。前者については、既習内容のうち最重要事項の概要を中心に、後者に関しては、主に「社会的リテラシー」を中心に、道徳の教科への格上げの意図、背景、実施の際の課題とそれへの対応の提案を検討した。

時代や社会が要請する諸問題の解決に道徳授業が一定の役割を持つことは当然であるとはいえ、道徳教育の原理や歴史等も踏まえた、総合的な理解に基づく実践が求められる。

今日の子どもや教育を取り巻く諸問題を解決するために、道徳授業は何ができるか。基本的には学生の構想した指導案はこの問いに迫ろうとするものである。授業とは、子どもが変わることを助ける意図的な営みだからである。時代や社会状況が危機的であれば、なおさらそれを超えるための自覚と力量を子どもが持つことが子どもを救うことになる。学生の指導案は、実際の実習先で体験した児童生徒の実態に絡めて、授業者が願う児童生徒像へと児童生徒が変容するための道徳授業としての資料とその具体的な授業展開とその基本的な手立てについての発表と質疑応答からなった。

②学生のレポートより

○教員は多様な方面から物事を考え、多様な見方で読み取る力が必要である。それらが授業で生きてくる。

○日頃の小さな問題を見逃さないこと、疑問に答えていくことによって、深い生徒理解に繋げ、それが授業が生まれる。

○生徒が自己肯定感を育むことのできる、生徒を受け入れ、生徒に寄り添う授業を目指したい。

(4) 学級づくりの模擬授業

①活動のねらいおよび実際

日本の教師の仕事には学級指導が大きな比重をもって含まれ、初任と同時に学級担任をすることが珍しくないどころか通常であると言えよう。しかし大学での養成課程でその詳細を訓練することはないし、教育実習もある程度できあがった学級に配属されるため、「学級づくり」は着任してからの試行錯誤とならざるを得ない。

そこで、新学期の初日を想定したマイクロティーチングを実施した。校種・学年・学級規模などすべて自由に想定し、担任教師の入室から計画し、数分にわたり実演する。その後、指導案あるいは構想の提示をも踏まえて、相互に講評して議論する。

多くの学生が（中学校の）入学式直後の時間を想定するなど、現実との乖離を露呈した者もあったものの、自己紹介として自らの人生体験を語ったり、ゲーム的要素を取り入れるなど、「学級づくり」を学び実践する準備の動機づけとして有効な時間となった。

②学生のレポートより

○「今まで何かを教える授業しかやったことがなく、初対面の生徒にどのような言葉がけをしたらよいかわかりませんでした。また学級の第一歩である為、学級の雰囲気を良くするにはどのようにしたら良いのか悩みました。」「今後も『この担任となら…』と思えるような学級開きができるよう試行錯誤していきたいと思いました。」

(5) 教育時事問題

①活動のねらいおよび実践

時事問題への興味関心を持つことは、真空の中で生きているわけではない生徒へ関わる教員にとっては必須の作業である。今年度は、主担当教授から提示された7つの主題を分担して調べ、報告と質疑応答を繰り返した。主題は順不同で教員の職務、国旗・国歌問題、学校組織、教育基本法改正、学力テスト、等々である。いずれも、教育の現状と課題を捉える上での確かな時事問題である。学生は、それぞれの主題について、歴史的経緯、法律的な解釈、現実対応、課題等にわたって報告した。

各自の報告を踏まえて、それぞれが自分自身の関心枠からレポートを作成して提出した。毎回の報告と質疑応答は、共通の理解にいたるための時空となった。さらに、個々の時事問題は点としてあるのではなく、相互に関わりがあることも次第に確認された。ものごとは多面的深層的立体的構造的な理解に努めない限り、本質理解にはいたらない。隔靴搔痒の感である。4名の担当教員がそれぞれの専門の立場、市民としての立場から協議に加わったこともあって、社会や国家のあり方についてのより深まった問いかけが生まれた。

②学生レポートより

7つの事項にわたるため、典型的なものを抜粋することは困難であった。共通しての見解は、「それぞれの時事問題は、問題の発生の歴史的経緯、現状、問題点、それらを解決するための方策を教育という基本から生み出していくことが重要であり、そのためにも、共通の問題について相互論じ合うことが大切である」ことである。

- 時事問題について、各方面からの意見を聞くこと、正しい知識を選択できるように学びたい。
- 刻々と変わる教育に常に関心を持ち、考えをめぐらせることが大切になる。
- 幅広い分野に興味関心を持つことが大切である。

(6) 教職実践演習を受講して

①活動のねらいおよび実際

この授業で何を学び、何を修得できたかを振り返り、各自が目指す教師像について改めて考え、それについての発表と共有を通して、教職実践演習の総括を行った。学生の発表とレポートから、教師を目指すにあたり自ら学ぶ姿勢の重要性を理解することができたことが伺える。

②学生のレポートより

- 時事問題や教育についての授業でいろいろな調べものを行っているうちに、各方面からの意見を聞くことや、正しい知識に近づくことの面白さに気がつきました。
- 意見交換をすることで、他人に意見や価値観を受け入れて、自分一人の偏った狭い視野ではなく、広い視野を持つことができることを学びました。
- 日々変化する教育をとりまく環境に敏感に反応し、本や新聞などで情報を集め、正しい知識と広い視野を持ち、問題の根の部分を見極める練習をすることが大切であると考えました。」
- この授業を受けて気づいたことは、学校を取り巻く問題などには目を向けることができなかつたことです。自分が思っていたよりもとても深刻な問題が存在し、教師であるならばそれを知らないでは許されないとします。幅広い分野に目を向けていきたいです。
- 常に課題を持ち続け、改善や解決できるよう勉強し続け、模索していくことを教職実践演習で学んだ。

3 今後の課題

「理想とする教師像」と題する初発の課題の再考レポートにおいて、学生が共通に強調したことは、優れた教員になるには、時代や社会に対する関心を持つことであるという点であった。表現は多様であったが、ここに行き着く。多くの学生が時事問題への関心を持つことの重要性と必要性について語ったことは、逆にいえば、これまでの学生生活では、時事問題は主要な関心事にはならなかったということなのだろう。

実際生活はすべて時事問題が関わる。個人的なことはすべて社会的なことである。「良識ある公民たるに必要な政治的教養」の一端はこうした時事問題への関心から生まれる。教職課程教育のみならず、大学教育の中で時事問題への興味関心を喚起するような取り組みは必須となる。学士力の中味は多々要素はあるものの、総じて言えば、参加民主主義的教養の育成ということに逢着するといえる。それはグローバル化社会の中で修得すべき感性と知性であろう。